

別記様式第3号（第6条関係）

会 議 記 録

次のとおり附属機関等の会議を開催したので報告します。

附属機関等名称	令和7年度第2回近江八幡市多文化共生推進懇話会		
開催日時	令和8年3月17日（火）14時～15時半		
開催場所	近江八幡市役所2階会議室D		
出席者 ※会長◎ 副会長○	◎森 雄二郎委員 ○塚本 毅委員 垣内 健太委員 門脇 エリトン ショウイチ委員 松村 美沙枝委員 オブザーバー 矢野 輝美 ヴァウキリア（市国際協会）		
次回開催予定	令和8年9月頃予定		
問い合わせ先	所属名 総合政策部まちづくり協働課 担当者名 竹村・岡田・宮崎 電話番号 0748-36-5552 メールアドレス 010406@city.omihachiman.lg.jp		
会議記録	発言記録・ 要約	要約した理由	内容を要約することで、分かりやすくなるため
内容	1．開会 2．協議事項 （1）第1回ワークショップの報告について （2）近江八幡市多文化共生推進指針の理念について 3．その他 4．閉会		

1. 開会

2. 協議事項

(1) 第1回ワークショップの報告について

事務局より資料の説明

各委員より意見・感想

＜委員＞ワークショップで出た意見について、ホームページの機械翻訳の項目追加など行政からの対応があり、そういう意味でも良い機会だったのでは。

＜委員＞ワークショップは非常に活発で熱意があった。第1回懇話会で出た意見とワークショップで出た意見で同じ内容のものも多く、懇話会での検討の方向性がずれていないということがわかってよかった。

＜委員＞参加したグループでは学習支援の取組（プレスクール）についての意見が多かった。需要がある事業であっても必ずしも継続されるわけではないことに驚いた。

過去の取組を知らなかったので近江八幡市でこのような事業があることに衝撃を受けた。

＜座長＞過去実施されていた取組みの中で、現在でも必要な取組について改めて確認することができたと思う。

＜委員＞全部大事なことだが優先順位をつけて取り組んでいく必要がある。

いろいろな人の声を聴いて優先順位の精度を上げていく必要があると思う。

＜委員＞いろんな人の意見を聞く機会は重要である。

(2) 近江八幡市多文化共生推進指針の理念について

事務局より資料に基づき説明

各委員より意見・感想

＜座長＞立て付け自体に無理がある部分があるのでは。理念にどのようなことばを並べていくかを考えていきたいところもある。

＜委員＞誰に対してわかってほしいのかを考えた言葉づかいを考えていく必要がある。役人のための指針に見えてしまう。一般の人が見てくれるような書き方を考えるべき。

＜委員＞主体性という言葉を見ると自分は遠ざけられているような印象を受ける。ポジティブな文章でも受け取り方によって印象は変わる。

＜委員＞「自分事として考えて行動しよう」ということが伝えたいとしても文章化するのは難しい。指針も日本語以外に多言語版も作るのであれば極力簡単な言葉にしたり、具体的に落とし込む必要があるのでは。

＜委員＞日本の文化やルールになじめなかった外国人は、市町が頑張っても興味ないから見ないということになる可能性が高い。せっかく頑張って作っても見てもらえないというのはもったいない。簡単な日本語にしたり興味を持つような内容にしたり工夫が必要。

＜委員＞日本に興味を持ち理解しようとする人が一人でも増えるような指針にしていきたい。

＜委員＞理念でキャッチ-なフレーズ（参画、つながる、協創・・・）をうたい、その下に具体的な取り組みを設定するという形はどうか。やさしい日本語を使うということなのであれば指針自体をわかりやすくしていくべき。

＜委員＞イラストやピクトグラムなども取り入れては？

＜委員＞外国人住民の中でも日本を好きだと思っている度合いは様々。それぞれの文化を尊重するのは大事だが、日本の文化を尊重している外国人もいる中で、日本人だけが外国人の文化を尊重するのは違うと思う。

＜委員＞それが相互理解ということなのだと思う。お互いを尊重し理解すること。

＜委員＞海外で生活していた時、声をかけてもらったことでイベントに参加できることもあった。

＜座長＞今回の議論のまとめをすると、まず、理念をシンプルにしてはどうかという意見。

理念の考え方は今回の懇話会を基にして極力シンプルでわかりやすい言葉を使うようにする。今回出てきたことばとしては、つながる、学び合うなど。具体的な取組の方向性については、情報提供、体制の整備、意識啓発を軸に考えていく。行政の中だけの話ではなく地域でも取り組めるように表現の工夫が必要。

さらにイラストなどにより見て楽しい指針にしていければというところだったと思う。

3. その他

令和 8 年度のスケジュールについて

＜事務局＞懇話会としては 2 回を予定している。

＜座長＞予算の都合もあるかもしれないが、もう少し意見交換する場を増やしたい。メールとかワークショップも任意参加で来てもらっている。委員に甘える部分もあるかとは思いますが集まれる委員だけでも集まるなど緩やかに議論できる場を設定してもらいたい。

この場で委員の皆さんの了解をいただければそのように進めていきたい。

＜委員＞了解

＜事務局＞時期含めて検討します。

4. 閉会